

2014. 10. 9

プレスリリース

「内外の化繊工業の動向」

2014年 第2四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その「概要」をお届けします。
ご高覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

概 要 (2014年第2四半期)

2014年4～6月のわが国の景気は、4月からの消費税率引き上げに伴う1～3月の駆け込み需要の反動で個人消費、住宅投資、設備投資ともに落ち込み、期待された輸出も生産の海外移転により伸び悩んだため低調であった。

このような中、化繊景況は婦人服用や車輛用の一部が不振だったものの、紙おむつ用やエアバッグ用などが堅調だったため、化繊生産は25.3万トン、前年比0.9%の微増となった。

国 内

- 1) 衣料用途は、スポーツ・アウトドア用の高密度織物を中心とした輸出ビジネスが好調を維持。ユニフォーム・ワーキング用は生機の在庫減少で荷動きが出てきた。パンストはプレーンタイプが堅調だったが柄物は低調が続いた。保温肌着用は飽和感が台頭する中、リピート需要が中心となり合織の出荷が伸び悩んだ。ブラックフォーマルはロードサイドショップ向けが堅調だが、主力の百貨店向けが盛り上りに欠けた。インテリア用途は、消費税率引き上げを控え1～3月に活況を呈したカーテンは持続力がなく低調であった。生活資材用途は、紙おむつなど衛材用途が製品輸出の増加を背景に好調に推移した。パップ剤基布用はポリエステル短繊維不織布からポリエステルニットへの移行が進んだ。産業資材用は、エアバッグ用の糸輸出が好調だったが、一方タイヤコード用は織物および強力糸の大幅な輸入増加が続いた。カーシートは消費税率引き上げ後が懸念されたが意外に堅調だった。震災復興関連は、除染処理用のフレコン・シート向けで在庫調整の進展から荷動きが出てきたが、漁網用は今年の補助金終了以降不振が続いた。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体で前年比（以下同じ）1.8%減、化繊2.2%減、紡績1.1%増。在庫指数（期末）は、繊維工業全体が0.5%減、化繊3.0%減、紡績1.6%減となった。（2010年=100、生産、在庫とも指数ベースでの比較）
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで23.1億ドル・前年比（以下同じ）0.4%増、円ベースでは2,354億円・3.9%増。形態別（ドルベース）では、繊維原料・3.7%増、糸類・1.2%増、織物類・6.1%減、二次製品他・4.5%増。仕向地別（ドルベース）では、全体の33.0%を占める中国が8.5%減の7.6億ドル、香港（5.8%減）、韓国（11.9%増）、台湾（3.7%減）、アセアン地域は、ベトナム（6.5%増）、タイ（3.3%増）、インドネシア（14.2%増）、マレーシア（4.1%減）となり、それ以外では米州（7.1%増）、西アジア（14.1%減）、欧州（15.1%増）であった。
- 4) 繊維品輸入は、ドルベースで91.0億ドル・前年比（以下同じ）5.7%減、円ベースでは9,299億円・2.4%減。形態別（ドルベース）では、繊維原料1.8億ドル・3.6%減、糸類3.6億ドル・4.7%増、織物4.0億ドル・4.5%増、二次製品他81.6億ドル・6.6%減。仕出地別

では、全体の65.9%を占める中国が11.8%減の60.0億ドル、韓国(6.0%減)、台湾(1.3%増)、アセアン地域は、ベトナム(17.4%増)、インドネシア(4.3%増)、タイ(4.8%増)、マレーシア(5.7%増)、それ以外では、イタリア(0.2%増)、米国(3.1%増)となった。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	2012. 4-6	2013. 4-6	2014. 4-6	2013年比(%)	2012年比(%)
輸出	千ドル	2,574,400	2,296,564	2,305,230	0.4	-10.5
計	百万円	206,317	226,678	235,430	3.9	14.1
繊維原料	千ドル	425,244	421,072	436,531	3.7	2.7
糸類	〃	332,152	297,261	300,701	1.2	-9.5
織物類	〃	859,560	766,794	719,749	-6.1	-16.3
二次製品他	〃	957,443	811,438	848,249	4.5	-11.4
輸入	千ドル	9,627,088	9,649,501	9,102,426	-5.7	-5.4
計	百万円	772,591	952,351	929,932	-2.4	20.4
繊維原料	千ドル	172,656	187,955	181,131	-3.6	4.9
糸類	〃	378,697	343,630	359,786	4.7	-5.0
織物類	〃	388,842	385,164	402,533	4.5	3.5
二次製品他	〃	8,686,894	8,732,752	8,158,977	-6.6	-6.1
(うち衣類)	〃	(7,202,594)	(7,325,463)	(6,679,554)	-8.8	-7.3
輸出レート	円/ドル	80.1	98.7	102.1	3.5	27.4
輸入レート	円/ドル	80.3	98.7	102.2	3.5	27.3

(出所) 財務省

- 5) 化繊生産は25万3,272トン・前年比(以下同じ)0.9%増となり、うちセルロース繊維4万4,449トン・15.5%増、合繊20万8,823トン・1.8%減となった。期末(6月末)在庫は8万9,513トン・0.4%増、うちセルロース繊維1万6,993トン・9.8%増、合繊7万2,520トン・1.6%減であった。

化繊輸出(繊維原料～二次製品)は16.4万トン・前年比(以下同じ)0.9%増。うち、繊維原料8.1万トン・1.0%減、糸類3.0万トン・2.5%増、織物類(面積ベース)1.66億㎡・2.5%減、二次製品2.7万トン・6.2%増となった。品種別では、レーヨンS32.3%減、ナイロンF14.5%増、ポリエステルF9.0%減、ポリエステルS24.0%減、アクリルS4.7%減、織物類(面積ベース)はナイロンF織物5.4%減、ポリエステルF織物0.7%減、ポリエステルS織物7.7%減であった。

化繊輸入(繊維原料～二次製品)は34.3万トン・前年比7.7%増。繊維原料1.6万トン・16.7%増、糸類5.6万トン・15.8%増、織物類(面積ベース)は1.64億㎡・4.4%増、二次製品23.8万トン・4.3%増、うち衣類10.7万トン・3.0%減となった。品種別では、レーヨンS6.1%減、ナイロンFは30.8%増、ポリエステルF19.9%増、ポリエステルS31.6%増、ポリエステル紡績糸14.1%増、織物類(面積ベース)はポリエステルF織物15.9%増、ポリエステルS織物1.2%減であった。

化学繊維の主要指標

項 目	単 位	2012. 4-6	2013. 4-6	2014. 4-6	2013年比 (%)	2012年比 (%)
化繊生産	千トン	252.1	251.1	253.3	0.9	0.5
セルロース	〃	43.4	38.5	44.4	15.5	2.3
合 織	〃	208.6	212.6	208.8	-1.8	0.1
化繊在庫	〃	96.4	89.2	89.5	0.4	-7.2
セルロース	〃	15.2	15.5	17.0	9.8	11.9
合 織	〃	81.2	73.7	72.5	-1.6	-10.7
化繊輸出	千トン	159.0	162.7	164.1	0.9	3.2
	100万ドル	1,640.3	1,455.3	1,448.0	-0.5	-11.7
	億円	1,314.7	1,436.6	1,478.8	2.9	12.5
繊維原料	千トン	76.1	81.7	80.9	-1.0	6.3
糸 類	〃	28.0	29.1	29.8	2.5	6.8
織物類	百万㎡	174.5	170.4	166.1	-2.5	-4.8
二次製品	千トン	26.6	25.2	26.8	6.2	0.9
化繊輸入	千トン	311.7	318.2	342.6	7.7	9.9
	100万ドル	4,073.7	3,993.9	3,912.0	-2.0	-4.0
	億円	3,269.6	3,941.7	3,996.5	1.4	22.2
繊維原料	千トン	11.4	13.9	16.2	16.7	42.6
糸 類	〃	50.4	48.1	55.7	15.8	10.4
織物類	百万㎡	167.5	157.0	163.8	4.4	-2.2
二次製品他	千トン	223.1	228.3	238.1	4.3	6.7
(うち衣類)	〃	(107.2)	(110.3)	(106.9)	-3.0	-0.2

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

<ポリエステルF>

2014年第2四半期のフィラメントの生産は3万4,720トン・前年同期比15.8%の減、6月末在庫は1万1,803トン・前年同月比%18.6%の減。

衣料用：アウトドア・スポーツの国内向けは低調に推移したが、円安定着を背景に輸出ビジネスは好調だった。ブラックフォーマルはロードサイドショップ向けなど低価格品が堅調だが、主力の百貨店向けは盛り上がり欠けた。裏地は不振が続く海外では現地調達が進む。水着は遊泳・競泳・フィットネス用ともに低調であった。「ヨガ」用のニットが国内・輸出ともに好調が続いた。

非衣料用：タイヤコードは織物輸入が大幅増、中国が全体の51.6%を占め、韓国に大差をつけ、更に台湾を中心とした強力糸の輸入も高水準であった。カーシートは消費税率引き上げ後が懸念されたが意外に堅調だった。カーテンは1-3月活況を呈したあと続かず低調。震災復興需要関連は、除染処理関連(フレコン・シートなど)

が製品・生地在庫が減少し荷動きが出てきたが、漁網は昨年3月の復興補助金終了以来落ち込んだままの状況にある。

フィラメント輸出は4,352トﾝ・前年比9.0%減、フィラメント輸入は3万1,602トﾝ・19.9%増。

<ポリエステルS>

2014年第2四半期のポリエステルステーブルの生産は3万8,150トﾝ・前年同期比2.5%の増、6月末在庫は1万9,719トﾝ・前年同月比2.8%の増。

紡績用：綿混向けは主力のユニフォーム分野が生機在庫の減少を背景に徐々に回復。レーヨン混はユニフォーム用が若干増、ウール混は前年並みの水準。純糸は今年1月の大雪対応で急増した帆布用が収束へ、中東向け民族衣装用に動きが見られた。製綿用：4-6月期は端境期のため年間を通じて低調、寝具関係は羽毛を除き低価格化が一層進んだ。高値が続く羽毛の代替が期待されるが具体的な需要増には至らず。不織布用：衛材用は中国向け製品輸出の好調を背景に国内衛材メーカーはフル稼働が続き原綿出荷が高水準を維持。生活資材用はパップ剤基布向けがポリエステルニット商品との競合激化で苦戦。車両資材用は消費税上げ後が懸念されたが4月以降意外に堅調だった。湿式用は中国家庭用浄水器向けのRO膜の需要拡大などで堅調。産業資材はフィルター・建材向けが上向いた。

ステーブル輸出は6,866トﾝ・前年比24.0%の大幅減、ステーブル輸入は8,044トﾝ・31.6%の大幅増。

<ナイロンF>

2014年第2四半期のフィラメントの生産は2万4,528トﾝ・前年同期比3.0%の増、6月末在庫は8,696トﾝ・前年同月比%17.8%の減。

衣料用：プレーンパンストは順調であったが、依然として柄物の不振が続く。ハイテンションニットの国内向けは横這い、一方中国向け輸出は円安定着や日本品見直しを背景に堅調だったが糸の汎用化が進む。輸出比率の高いアウトドア/ウインター用は円安定着を背景に欧米市場で韓国・台湾品から商圏を取り返し好調だった。インナー向けは低調が続いた。

非衣料用：タイヤコード用のナイロン消費量は低調だったが、航空機タイヤ向けは好調。エアバッグ用強力糸の輸出好調が続き、なかでも中国・韓国向けの増加が目立った。ホーサー（船舶係留用ロープ）は新造船の受注が好調であるが、竣工までにはタイムラグがあり、本格的な回復はまだ先になりそう。タイルカーペット向けは健闘したが、自動車用マットは低調であった。

フィラメント輸出は9,602トﾝ・前年比14.5%増、フィラメント輸入は7,923トﾝ・30.8%増。

<アクリルS>

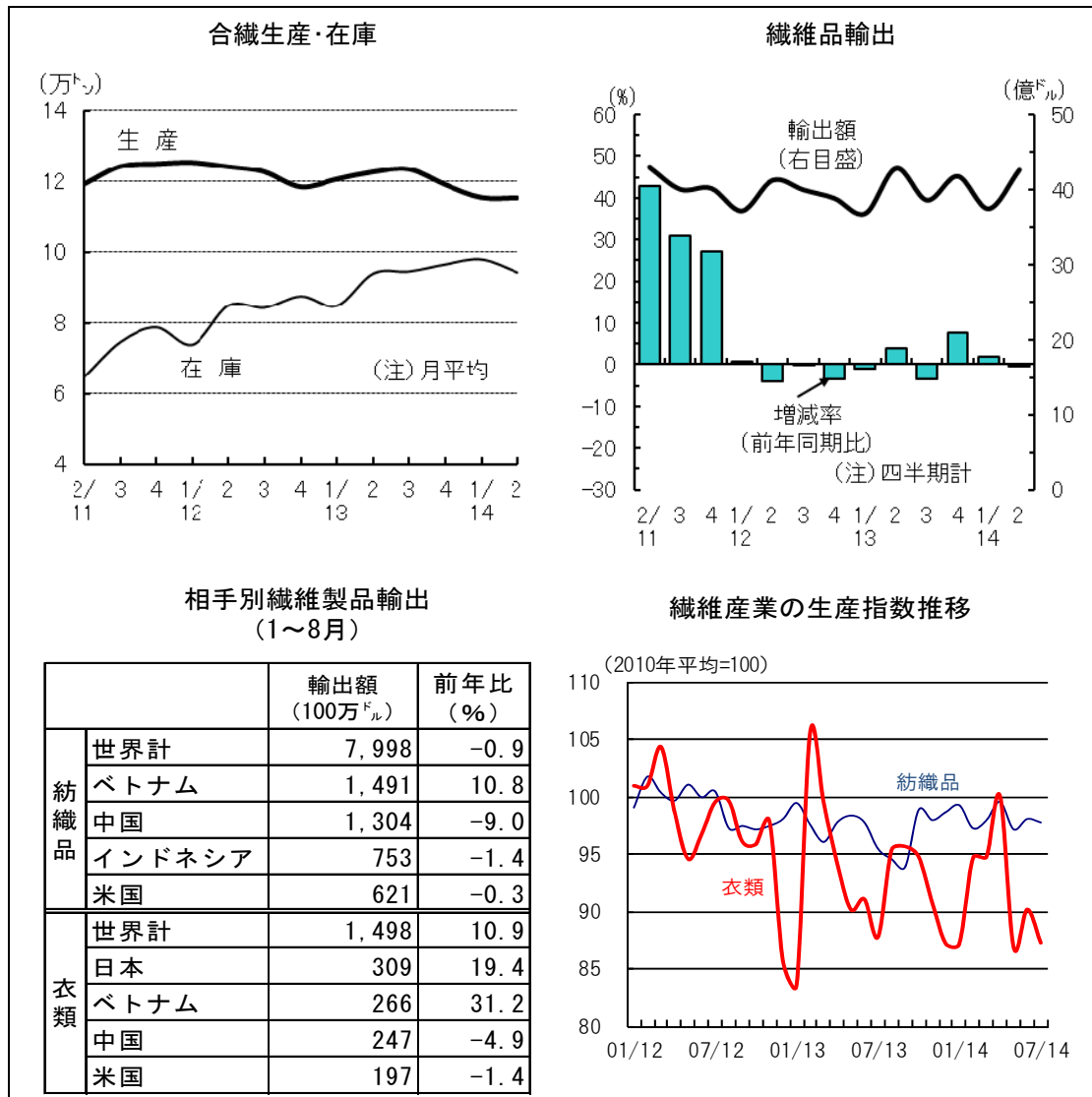
2014年第2四半期のステープルの生産は3万7,489トシ・前年同期比4.5%の減、6月末在庫は9,954トシ・前年同月比1.0%の減。

衣料用：保温肌着用は飽和感が台頭する中、リピート需要が中心となりステープルの出荷が伸び悩んだ。セーターはじり貧が続き、アクリルの特性（バルキー性）が求められるアイテムだけが残った感がある。

建寝装用：長期低落基調が続き不振の毛布について、アクリルメーカーが産地と連携して昨年に引き続き中国の富裕層向けに今年も販売を計画。同じく不振が続くカーペット関連では防水・抗菌など機能を強調した水回りマット用が健闘した。

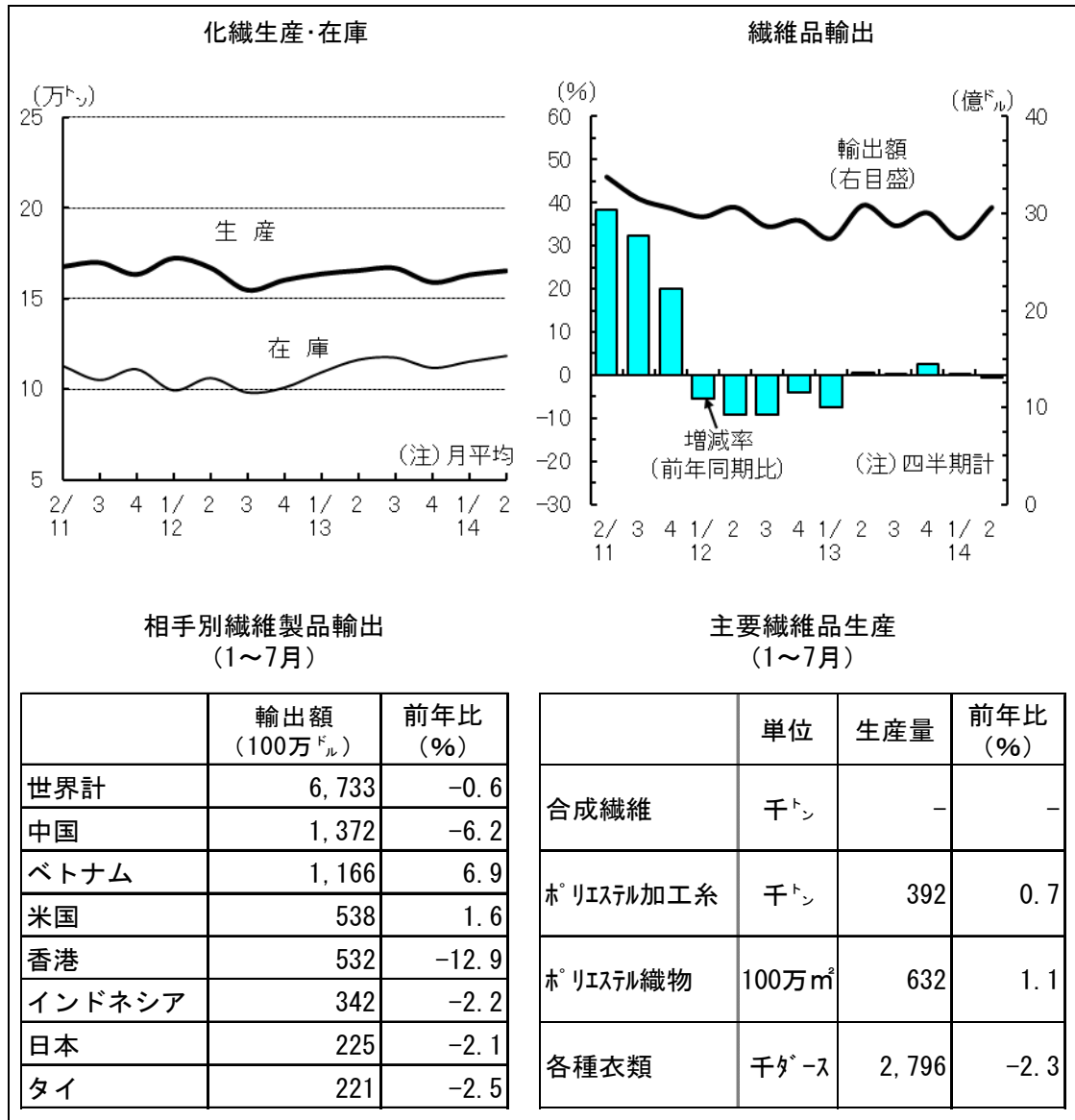
ステープル輸出：最大仕向地の中国が1万8,538トシ・前年比（以下同じ）15.0%の減、主力フェイクファーが2013年シーズンの中国店頭販売において暖冬や春節商戦が低調だったため生地・製品在庫が増加している模様。欧米向けフェイクファーの再輸出品は品質が向上した韓国・台湾品との競合が激化した。インドネシアは2,132トシ・12.4%減、セーター向け梳毛糸が不振。一方インドは1,844トシ・77.1%増、手芸糸用が好調だった。

7) 韓国



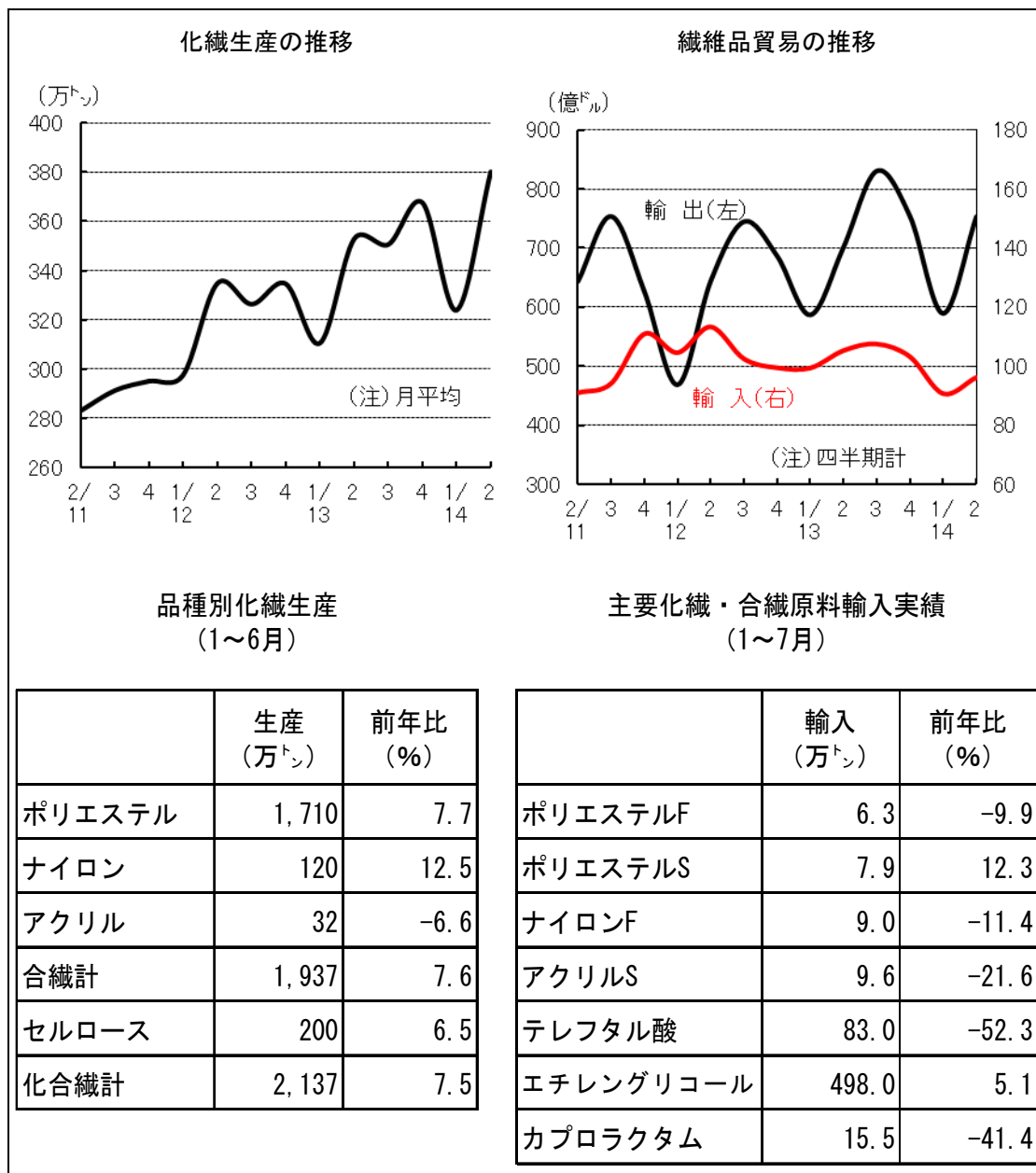
- ◆合繊生産、繊維品輸出とも前年実績割れとなった。
- ◆第2四半期の合繊生産は前年同期比6.0%減の34.6万ト。期末在庫は0.4%減の9.2万トとなった。ポリエステルSは3.6%増と前年実績を上回ったが、ナイロンFが13.2%減、ポリエステルFが10.5%減、アクリルSが14.8%減とともに2桁減となった。
- ◆第2四半期の繊維品輸出は前年同期比0.5%減の42.7億ドルとなった。1~8月の繊維品輸出を相手別にみると、紡織品は全体で0.9%減、ベトナム向けは10.8%増と好調が持続しているが、その他の主要仕向国は減少した。衣類は全体で10.9%増、日本向けは19.4%増、ベトナム向けは31.2%増と大幅増となった。
- ◆直近(2014年7月)の繊維品の生産指数をみると、紡織品は前年同月比2.4%増、衣類は0.6%減と、紡織品は上昇、衣類は低下となった。

8) 台湾



- ◆化繊生産、繊維品輸出とも微減となった。
- ◆第2四半期の化繊生産は前年同期比0.1%減の49.6万トンとなった。合繊の期末在庫は前年同期比2.2%減の11.5万トンとなった。品種別に合繊生産をみると、ポリエステルF(3.0%減)を除き増加した。
- ◆第2四半期の繊維品輸出は、0.7%減の30.6億ドルとなった。1~7月の相手別輸出をみると、最大の中国向けは6.2%減、香港向けが12.9%減となったが、ベトナム向けが6.9%増、米国向けが1.6%増と増加した。
- ◆1~7月の主要繊維品の生産は、ポリエステル加工糸は0.7%増、ポリエステル織物は1.1%増となったが、衣類生産は2.3%減となった。

9) 中国



- ◆ 繊維生産は引き続き拡大しているがその伸びは鈍化した。繊維品輸出は前期に比べ回復したが、1桁の伸びに鈍化している。
- ◆ 第2四半期の化繊生産は前年同期比7.7%増の1,140万吨となった。1~6月の化繊生産を品種別にみると、主力のポリエステルは7.7%増の1,710万吨、ナイロンは12.5%増の120万吨、アクリルは6.6%減の32万吨となった。セルロース繊維は6.5%増の200万吨となった。
- ◆ 第2四半期の繊維品輸出は前年同期比7.3%増の億753ドル、繊維品輸入は8.7%減の96億ドルとなった。
- ◆ 1~7月の合繊原料輸入をみると、国内生産の増加もあり、テレフタル酸は52.3%減、カプロラクタムは41.4%減とともに大幅減となった。

相手別繊維製品輸出
(1～6月)

	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)
世界計	1,325	4.1
アジア計	597	-1.7
日本	111	-8.4
香港	77	-18.7
韓国	35	19.7
アセアン	167	3.2
EU	261	18.5
米国	195	6.9

繊維業界の主要指標
(1～6月)

	単位	指標	前年比 (%)
企業数	万社	3.8	-
赤字企業数	万社	0.6	2.7
主要業務収入	億元	31,039	8.5
うち化繊産業	億元	3,404	4.1
利潤総額	億元	1,478	11.8
うち化繊産業	億元	96	19.6
繊維産業実際投資	億元	4,545	16.1
うち化繊産業	億元	515	14.1

社会小売財消費総額
(1～8月)

	単位	数値	前年比 (%)
商品売上総額	億元	166,108	11.9
うち繊維品等	億元	7,642	10.4

繊維関連物消費者物価指数
(1～8月)

	前年同期比 (%)
消費者価格指数・全製品	1.2
消費者価格指数・衣類等	1.0

- ◆1～6月の相手別の繊維製品輸出をみると、EU向けは前年同期比18.5%増の261億ドル、米国向けは6.9%増の195億ドルとともに堅調に推移した。アジア地域では、日本向けは8.4%減、香港向け18.7%減とともに大幅減となった。アセアン向けは3.2%増となった。
- ◆1～6月の繊維産業の主要指標をみると、企業業績は販売、利潤とも堅調に推移している。主要業務収入は前年同期比8.5%増、利潤は11.8%増、そのうち化繊産業の主要業務収入は4.1%増、利潤は19.6%増となった。繊維産業の実際完成投資額は16.1%増、そのうち、化繊産業は14.1%増となった。
- ◆繊維産業の衣料用内需の伸びは堅調に推移している。1～8月の繊維品商品売上は前年同期比10.4%増と輸出を上回る伸びとなった。衣類等の消費者物価指数は前年同期比1.0%上昇した。

10) 米 国

・合織生産

2014年1～8月の合織生産は前年同期比0.9%減の192.5万トンであった。主要品種別にみると、ナイロンFは産資用が5.0%減、紡織用が6.2%減と減少したものの、主力のカーペット用が住宅市場の好調継続により1.8%増の31.1万トンと増加したことから全体では横ばい(0.4%増)の38.2万トンとなった。

ポリエステルFは、上記と同様の理由によりカーペット用が好調で、12.2%増の24.3万トンと2桁増、紡織用も2.0%増の12.1万トンと増加したことから、全体で3.3%増の42.9万トンとなった。

一方、ポリエステルSは3.2%減の42.7万トン。カーペット向け、不織布向けのいずれも減少した。

オレフィンFは1.6%減の57.0万トン。品種別出荷の内訳は、モノフィラメント・スパンボンド・フィルムファイバーが横ばいであった一方、マルチフィラメントヤーンが4.4%減となった。オレフィンSも7.1%減の11.7万トンと減少した。

主要合織の生産高(1～8月)

(1000トン)

	2013	2014	前年比(%)
ナイロンF	380.3	381.7	0.4
産資用	52.9	50.3	-5.0
カーペット用	305.4	310.8	1.8
紡織用	22.0	20.6	-6.2
ポリエステルF	415.3	429.1	3.3
産資用	80.8	65.9	-18.5
カーペット用	216.4	242.8	12.2
紡織用	118.1	120.5	2.0
ポリエステルS	441.2	427.0	-3.2
オレフィンF	579.4	570.3	-1.6
オレフィンS	126.1	117.2	-7.1
合織計	1,942.2	1,925.3	-0.9

(出所) Fiber Review

・輸 入

2014年の1～7月の繊維製品輸入は前年同期比2.4%増の604.3億ドルとなった。仕出地別にみると、輸入全体の37%を占める中国が0.3%増の224.0億ドルとほぼ横ばいであったのに対し、ベトナムが13.0%増の56.0億ドル、インドが6.7%増の39.9億ドルと増加した。

上記の繊維品全体に対し、衣料輸入は2.2%増の456.8億ドルであった。仕出地別ではベトナムが13.8%増の51.8億ドルと大幅に増加したほかは、メキシコが0.3%増の21.5億ドルと横ばい、シェア34%を占める中国が0.3%減の155.9億ドル、バングラデシュが1.8%減、インドネシアが4.6%減の29.5億ドルといずれも減少した。

繊維製品輸入実績（１～７月）

(100万ドル)

繊維製品計				うち衣類			
仕出地	2013年	2014年	前年比(%)	仕出地	2013年	2014年	前年比(%)
中国	22,346	22,402	0.3	中国	15,639	15,593	-0.3
ベトナム	4,955	5,599	13.0	ベトナム	4,550	5,175	13.8
インド	3,737	3,985	6.7	バングラデシュ	2,997	2,945	-1.8
インドネシア	3,250	3,091	-4.9	インドネシア	3,091	2,949	-4.6
バングラデシュ	3,103	3,063	-1.3	メキシコ	2,139	2,145	0.3
世界	59,015	60,427	2.4	世界	44,702	45,683	2.2

(出所) 米商務省

・企業動向

Aquafil USA が南部ジョージア州 Catersville のカーペット用ナイロンF工場の増設工事に着工。生産能力を年産1.6万トから2.3万トに拡大する。投資額は2,000～2,500万ドル。同社は伊 Aquafil S.p.A の子会社。

産資用合繊大手の Performance Fibers が、投資額約2,500万ドルの事業再構築計画を発表。同社は北米、欧州生産拠点の設備先鋭化を図る一方、ノースカロライナ州 New Hill の Moncure 工場を閉鎖するとしている。同社は産資用ポリエステルFを製造し、生産能力は年産5万トである。

11) 欧州

・合繊生産

合繊生産は産資用ナイロンFが7.2%増の6.8万ト、同ポリエステルFが10.5%増の8.5万トと、産資用フィラメントがナイロン、ポリエステル共に増加した。一方、紡織用ポリエステルFは0.1%減の13.9万トと横ばい。

ステーブルはポリエステルSが4.8%減の38.1万トと減少した。

主要合繊の生産高（１～７月）

	(1000ト、%)				
	2011	2012	2013	2014	前年比
産資用ナイロンF	72.7	66.1	63.5	68.1	7.2
紡織用ポリエステルF	168.9	139.1	139.5	139.4	-0.1
産資用ポリエステルF*	93.7	81.2	77.2	85.3	10.5
ポリエステルS*	386.8	399.1	400.3	381.1	-4.8
アクリルS	326.0	345.8	324.0

(出所) CIRFS

(注) その他の品種は未発表。*ベラルーシを含む。

・企業動向

独の炭素繊維メーカーSGL Group が英北部スコットランド Muir of Ord において、熱可塑性複合材料用炭素繊維の生産を6月末より開始した。

Lenzing がオーストリアLenzingに、年産6.7万トのリヨセル繊維Tencel工場の建設が完了した。

合繊4品種需要実績

(2014年4～6月)

I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2014年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,990	95.8	101.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	46,790	101.3	99.7
	計	63,780 (31,600)	99.7 (104.2)	100.1 (119.9)
輸出 (原糸、加工糸)		1,757	90.8	75.9
需要計		65,537	99.5	99.3
在庫		11,803	107.8	81.4

(注)国内需要の()内数値は輸入量

II. ポリエステルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2014年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む)	4,727	102.5	91.9
	非紡績用 (加工品輸出用含む)	31,826	94.6	110.6
	計	36,553 (8,044)	98.8 (93.8)	112.4 (131.6)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		3,170	50.7	62.4
需要計		39,723	91.9	105.7
在庫		19,719	126.1	102.8

(注)国内需要の()内数値は輸入量

III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2014年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	9,006	96.6	94.6
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,321	108.1	115.1
	計	25,327 (7,923)	103.7 (114.7)	106.9 (130.8)
輸出 (原糸、加工糸)		7,485	106.0	124.2
需要計		32,812	104.2	110.4
在庫		8,696	95.3	82.2

(注)国内需要の()内数値は輸入量

IV. アクリルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2014年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	5,921	97.3	71.7
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	1,998	101.5	95.4
	計	7,919 (196)	98.4 (101.6)	76.5 (73.7)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		28,587	114.8	99.0
需要計		36,506	110.8	93.1
在庫		9,954	113.5	99.0

(注)国内需要の()内数値は輸入量